

今年度の教育相談室の運営を振り返って

◇「シャイニングクラス」教室の運営（教科等の授業）

6名の通級生（小2人、中4人）を受け入れて、市民プラザとわくわく新庄の一室を教室にして運営してきました。年間の学習日数は146日です（教科学習113日、体験活動23日、夏季自主学习10日）。

教科学習は体育と5教科で構成し、学校における年間の指導計画に沿って、限られた時数の中で効果を上げられるよう指導に努めてきました。

体験活動では、キャリア学習を含めて自然や他の人とかかわり等、多様な要素を含む活動を実施してきました。特に、農作物の栽培においては作付けから収穫・販売に及ぶ一連の活動をとおして、不足しがちな「実体験」を積み上げることができました。

また、通級生の所属学校との情報交換を密にし、教室運営の各場面において「学校復帰」につなぐ視点で一人ひとりの課題に応じたかかわりに努めてまいりました。

◇教育相談業務

通級生の保護者との日常的な相談のほか、通級生以外の保護者等からの電話や来室による相談に応じてきました。内容別相談件数は次のとおりです。（2月末日現在）

内容別相談件数

相談内容	件数（前年比）	割合（%）
① 学業生活	169（+122）	56%
② 不登校（含傾向）	50（-20）	16
③ 自立支援	68（-57）	22
④ 意見、要望	0（-2）	0
⑤ その他	19（+10）	6
計	306（+53）	100%



◇「気楽に話し合う会」の開催

通級生の親御さんたちが、現在の状況や経験などを気楽に話し合うことができる機会です。心を開いて苦悩を語り、耳を傾け合うこと自体に孤立感を和らげほっとできる効果があったようです。そしてその中では、自分の子育ての参考になりそうなことを相互に感じ取ったりしている様子も見られました。

今年度は「先輩母親」が何回か参加される機会がありました。実感のこもった経験談を聞いた一般保護者にとっては、肩の荷を軽くできる貴重な癒しの場になったように感じました。

次年度は、だれにも相談できずに悩んでおられる保護者の方に、この会についての情報が届くよう広報の工夫に努めてまいります。



今年度の参加者数

	4月	6月	8月	10月	12月	2月	延べ数
参加人数	4	5	3	4	2	2	20

体験活動⑳「感謝の会」(修了の会)

1. 期日・場所 3月6日(月) 新庄市民プラザ
2. 参加児童生徒 5名(中学生3名、小学生2名)
3. ね ら い 学年末にあたり、一年を振り返って自分の成長に気づき次年度への展望を持つとともに、シャイニングクラスの授業はじめ各種の活動は多くの人たちに支えられて成り立っていることを確かめ、感謝の気持ちを伝える。



茶話会/励ましのことばをいただく

振り返りの発表では、自分の努力によって変化できたことを肯定的に評価し、次に向かってステップアップしていきたいとの気持ちをしっかり表明しました。遠慮がちで抑え気味のトーンの中にも、ささやかではあるが一人ひとりの自信が伝わってきました。この

肯定的評価と自信こそが、まさに学級復帰に向けて大切に育てていきたい芽です。

出席して下さった先生方からは、これら生徒の思いを受け止めていただき、温かい励ましのお言葉を賜りました。ありがとうございました。

トピック

「丸ごと受け容れる」ということ / 参考：山形新聞 2/28 “スーパー保育士” 原坂一郎氏の幼児教育講演

《例》小児の「痛いよお。」の訴えに保護者や保育者が対応する場面で

▼「痛くない! なぁに それっぽっち! 痛くないっ!」 = 否定 → 不安などの初々的な感情に

◎「あら そ〜お、痛いのお?」
◎「でも、◇◇ちゃんは 強い子だから 我慢できるよね。」 = 受け容れ

「○○○…………。」

↓
安心 & 自信

(自己効力感、自己肯定感、自尊感情等の基盤)

「子育てでのコミュニケーションは、すべての人間関係に当てはまる基本中の基本。」～ 原坂氏 ～

相手(子どもでも大人でも)の話がまだ終わらないうちに、つい話し出したくなる衝動はだれにでも起こるものです。しかし、途中でさえぎっては「丸ごと受け入れる」姿勢の対極になってしまい、一生懸命伝えようとしている気持ちを削いでしまいます。

子どもたちとの向き合い方の自己点検を促される思いでこの記事を目にした次第です。

教育相談連絡先

○ ダイヤルなんでも相談
TEL 23-7266

○ 適応指導教室(シャイニングクラス)
TEL 22-2111
(内線 445、448)